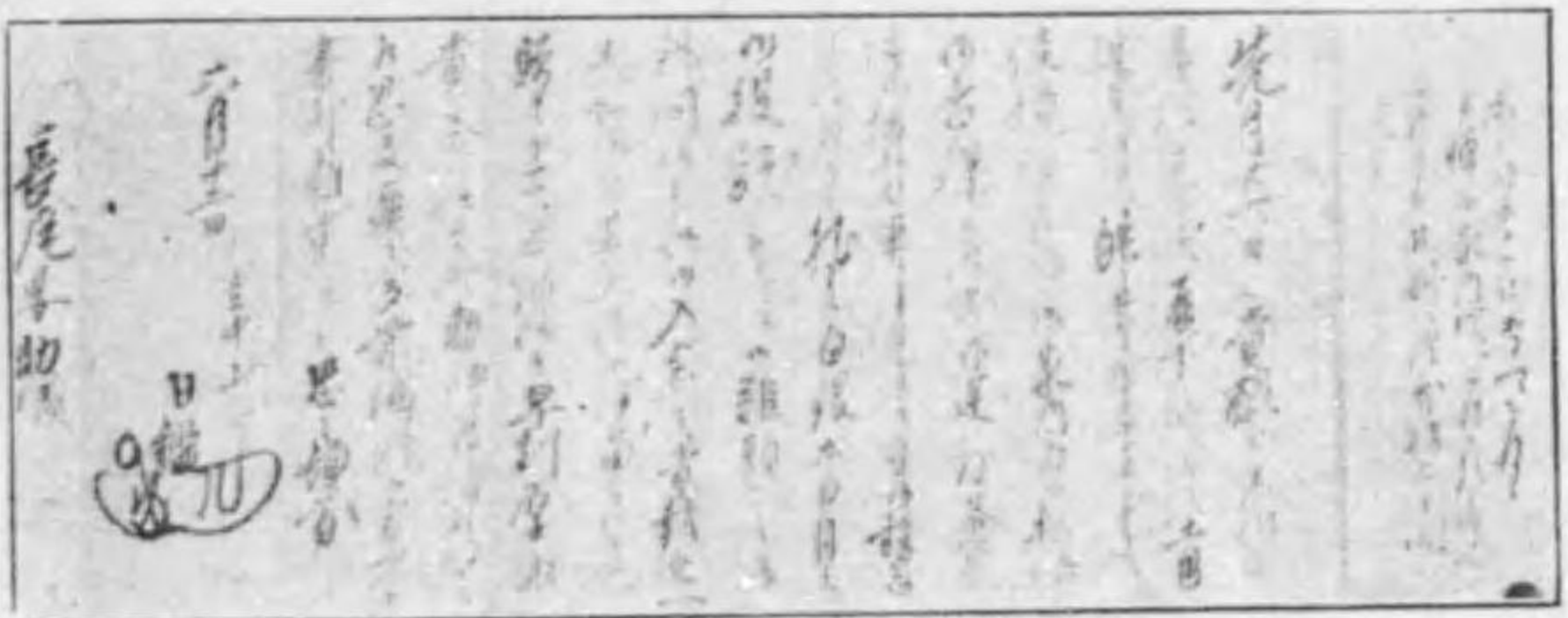


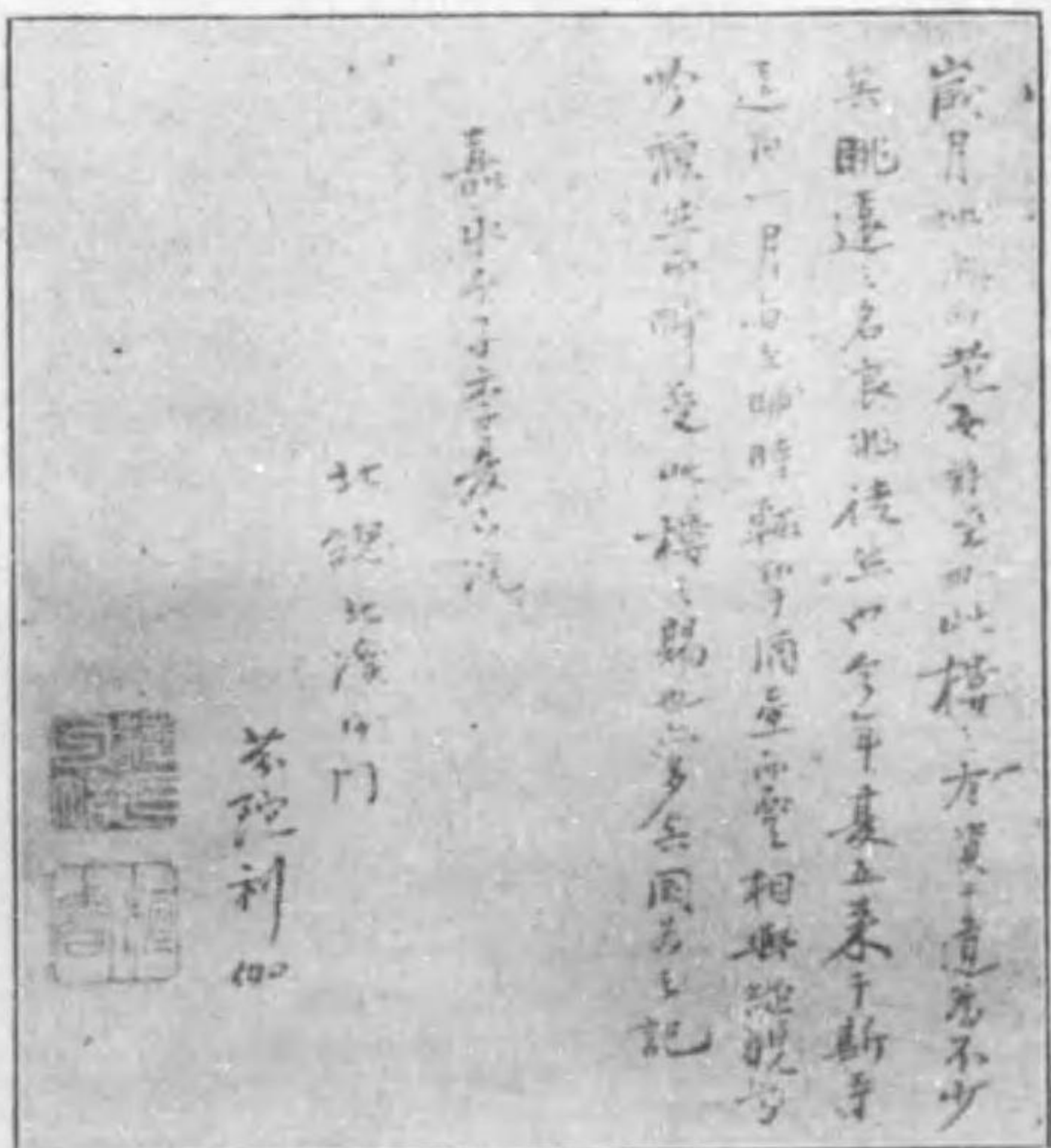
に轉教して強折の化導を布き、眞宗高倉學寮の靈城、伊呂波歌邪正

【繪解】谷中本行寺所藏日智上人筆跳遠樓の記



辯を出して本宗を難ずるや、示正編二を著して之を駁し、心遂醒悟論を製して日輝上人の本迹歸宗論の説を破す、門

下の上足に日周日容上人あり、日周上人は後ち興門に轉派し、要法寺四十一世に主たり。日容上人徳望あり、世榮を避けて専ら學徒の育英に努めしかば、明治大正の間に亘りて活動せる小林日至、牧田日禱、本多



【繪解】大阪蓮成寺所藏日鑑上人の消息

無宿日生

島田清風

佛立講

加藤廉三

小川泰堂

日生上人等皆其門に出ず。要法寺三妙院日生上人は幕府の稅政を慨し、國運の安危を憂ひ、無宿日生と稱して安政四年遂に老中久世廣周に諫國書を呈せり。

居士の宣教

其間京都妙蓮寺日耀上人の門下島田清風居士は日肇上人の説に基きて安政四年本門佛立講を京都に起し、其教義行法、平易を旨とせしかば、在俗の間に傳播して多くの信者を得たり。讃岐高松城主の弟松平頼該、また清風の門下となりて外護大に努めたりと云ふ。此と同時に大石寺門徒に加藤廉三居士、一致派には小川泰堂居士あり。泰堂居士は赤旗深行と相呼應して大道に四個格言を絶叫し、又智英日明上人が蒐集せし祖書の遺稿を校訂して高祖遺文録三十となし、祖文の普及を計れり。斯の如くにして本宗は明治の維新を迎へ、廢佛毀釋の難關を切抜けし素地を作りしなり。

第六期 明治・大正時代

第三十四章 明治新政の宗教對策と本宗各派

新政の宗教對策

王政復古の思想は明治維新の改革を齎らし、本邦固有の神道は保護せられ、尊王攘夷の餘波は佛教の排撃となり、廢佛毀釋各地に行はれ、隆門の如きは薩隅兩國百二十餘箇寺を神道に改めらる。明治元年神佛判然の令出て、宮門跡の復飾を命じ僧侶の還俗を奨勵し神道を國教とし政教一致の制を立て、同四年勅願所及勅修の法會を廢し、門跡院家等の號を停止し、寺領を沒收し以て政治と佛教との關係を絶ち、次で僧位僧官を廢して一般の職業とし、氏姓を稱せしめ肉食妻帶蓄髮の禁を解けりかくして神道を以て佛教に代らしめんとせしが、其效果著るしからざるに鑑み、政府は再び僧侶

廢佛毀釋

神道を國教とす

神佛兩教の合併

【繪解】小林日昇師の竹畫



大教院 一宗一管長制

【繪解】稻田海素師所藏日邊上人の書

を利用して報國盡忠の思想を鼓吹せしめんと欲し、同五年三月教部省を置き、神佛兩教をして教則三條に基きて布教をなさしめ、教導職十四級を設け、四月各宗の碩徳を召して教導職取締等に就きて訓令を垂る。本宗は身延日健師に代りて感應寺日治師出でて事を執る、新居日薩吉川日鑑、小林日昇師等之れを補佐す。次で佛教徒の獻議により麴町に神佛合併の大教院を建て、教導職養成の教校に充て、地方に中教院、小教院を開けり。十月一宗一管長の制を定めらる、や本宗は一致勝劣兩派合して一管長を推戴する事とし、越後本成寺顯日琳師撰ば

れて其任に當り、中山の河田日因師之が執事たり。翌年大教院を芝増上寺境内に移し、各宗々務局を同寺境内に別置

洗末亦淨見あ峯

するや、本宗は懸河寮に置き、各派合同して宗政を執り、興門の目白蓮華寺瑞雲日透陣門の伊皿子長應寺日妙、一致派の久保田日遵師等交出でて事に與れり。

本宗の七大
本山
【繪解】玉
野日志師



等は一一致勝劣兩派の二十餘本山と共に教部省に訴へて本山同權を主張し、翌六年八月七大本山の議を撤回し、管長は一一致勝劣兩派より年番交代の撰出とし、勝劣側は興門八品妙滿寺本成、本隆兩寺の四派

宗内各派の分離獨立 此時

に當り新居日薩加藤日馨顯日琳師等相計りて身延池上中山京都妙顯寺本圀寺妙滿寺越後本成寺を以て一宗の七大本山と定む。茲に於て八品派の日種日正小森日經師興門派の釋日貫玉野日志師選ばれて管長となれり。

一一致勝劣
二派の分離

【繪解】新
居日薩師



抽籤によりて管長を定むる事として落着せり。然れども一一致勝劣の兩派互に宗義の相違ありて合同の不可能なるを悟り、同七年三月教部省の許可を得て管長を別置して分離する事とし、一致派は新居師時恰も眞宗西派の島地默雷赤松連城師等神佛兩道の分離を獻議し、同八年五月遂に神佛合併の大教院を開散し、各宗別個に教育機關を設くる事となれり。本宗一致側は新居日薩三村日修吉川日鑑師等相計り、既に飯高中村等の檀林を廢し、同五年八月各宗に卒先して宗教院を芝二本榎に建て、宗乘を講授し、以て宗門教育の統一を斷行せしが、茲に至りて宗教院を大教院と改め、尋で之に宗務局を併

置し、管長の下に執事を置き、地方に事務所を設け取締をして事を司らしむ。又勝劣四派は合同して別に大教院を芝伊皿子長應寺に設け、本成寺・顯日琳・本隆寺・眞枝日蓮・妙滿寺・加藤日馨師等交代相次で管長となれり。

一致派は日蓮宗と公稱す

勝劣四派の分離

不受不施二派の獨立

翌九年一月日薩師宗名を官に請ふて日蓮宗と改稱するや、勝劣四派亦公許を得て一時日蓮宗の標名を掲げしが、同く勝劣四派内に在りても夫々教義の相違ありて強もすれば其間紛擾なき能はず、茲に於て終にまた四派各分離し、派名を公稱して別管長を置けり。即ち日蓮宗・興門派は富士五山及房州保田妙本寺・京都要法寺・伊豆實成寺を八箇本山とし、日蓮宗・妙滿寺派は京都妙滿寺を總本山とし、日蓮宗八品派は本能・妙蓮・本興・光長・鷺山寺を五大本山とし、陣・眞兩門派は合同して日蓮宗・本成本隆二派と唱へて獨立せり。當時赤木日正師あり、不受不施の法流を傳ふ。嘗て宗制主張の爲に禁

【繪解】日正師の筆蹟



錮竄戮せられし幾多先師の冤罪を雪がんと欲し、文久三年一派の再興運動を起し、爾來七年間七十八回の請願をなせしも許されず。明治八年六月重て願書を提出して再興を請ひしかば、一致派管長新居師、勝劣派管長加藤師、其他各派の代表者は意見を提出して、不受不施は一宗の通儀なれば一派獨立の必要なしと反對せしが、教部大輔・穴戸・磯氏、日正師の熱心なる主張に感じ、斡旋大に努め、終に翌九年四月再興の許可をなす。茲に於て日正師は備前金川に妙覺寺を創立して、不受不施派の總本山とし、又龍華教院を起して宗學を研鑽せしむ。越て同十五年三月に至り、釋日心師亦不受不施講門派再興の許可を得て、金川に本覺寺を開きて一派獨立せり。

久遠皆成の諍

八品派に在りては京都本能寺は元治元年七月兵燹に罹り、維新に際して其末寺種子屋久・永良・部三島百二十餘箇寺

本能寺

妙蓮寺對四大本山

は薩藩の廢佛毀釋の厄に遭遇して悉く神道に改められ、次で明治四年寺領を沒收せられて衰微の極に達せり。越て同八年信徒の誘取より京都妙蓮寺對四大本山の間、葛藤を生じ、轉じて法義の諍となり、妙蓮寺側は蓮形日曉、太田日信師等久遠方と稱し、皆成方には日種、日正、石濱、日勇、日種、日應師等ありて互に相諍ひ、遂に教界の一問題となり、兩黨の係争前後八箇年。明治十五年唯我龍舜、村田寂順、石川眞如、蒲原精二等他宗僧俗の仲裁によりて和融し、四月一派五山の盟約成り、其と俱に五大本山の貫首は五箇年を以て滿期交代とし、管長は此五山より一年交代に勤務すべき事を議定せり、是を「久遠皆成の諍」と云ふ。

五山盟約

第三十五章 明治十七年已後の宗政變遷

一宗統治を管長に委ぬ

管長の宗内統治 明治十七年八月政府は教導職を廢し、各宗管長に其宗内の統治を委任せしかば、諸宗派各宗制寺法を制定し、議會

制度によりて宗内政治を行ふ事とせり。されば本宗諸派亦自治の自由を得て、本化的宗門氣魄漸次に蘇活し、各派相競ふて興學布教に努めしかば、是より本宗は發展の域に向へり。

一六兩條の諍

日蓮宗は既に明治十一年四月管長吉川日鑑釋

日禎、福田日耀、協日熙師等と宗會を開き、總大五山、本山等の稱呼を定め、次で同十七年十一月全國宗門大會を開き、宗務局を宗務院と改め、執事を管事と改稱し、更に録事、庶務等を置き、地方事務所を録所とし、取締を録司と改め、録司補を置き、以て教育と政治とを分離し、又妙法講社規則を設けて布教を獎勵せり。

越て同二十一年九月管長三村日修師は監督物部日嚴、小泉日慈、神保日淳師等の獻策を容れ、宗政の統一を計らんと欲し、改良案十三條を起草し、諮問總會を開きて之に諮る、其第一條には管長の名を大法主と改め、總本山住職を以て之に任ぜしめ、又其第六條には宗務院を大

總大五山及本山の稱呼

十七年の改革

一六兩條

法主の住地たる身延に移し、東京にその出張所を置くこと云ふに在り。然るに池上本門寺、京都本閤寺等二三の議員は此原案に反対し、池上



【繪解】三
村日修師

合末論

務省に提出して實施を願へり。時恰も本間海解、佐野前勵等氣鋭の師は小林日董師の賛助を得て四十四本山に隸屬する三千四百餘の寺院を擧げて身延久遠寺の末寺とし、四大本山を身延別院とし、純然た

の代表藤原日迦師終に席を蹴つて議場を退出せり。されど玉澤の物部貞松の、小泉、岩本の氏家湛長、星下の脇田堯惇師等は在野黨の守本文靜、加藤文雅、佐野貫孝師等と共に斡旋大に努め、終に原案を可決せしめ、その決議案を内

本山同盟黨

爲宗會

る一本山制度とし、宗權の統一を計りて興學布教の基を確立せん事を獻議せり。稱して「合末論」と云ふ。茲に於てか京都本閤寺釋日禎師は妙覺寺旭日苗師を上京せしめ、下谷蓮城寺に事務所を設け、池上の監督藤原日迦師、執事黒澤日明師、水戸久昌寺鷄溪日舜師、中山執事飯塚止孝師等と結びて本山同盟黨と稱し、深川淨心寺伊東日規師之が參謀として反對運動を劃策し、宗務當局の提出せし決議案は宗會法に背き、一宗の輿論に非る旨の建言書を出して其許可を防止せり。小泉脇田久保田、遙佐野前勵師等は之に對して爲宗會を組織し、物部師を會長に推し、本部を芝白金覺林寺に置きて對抗運動を開始せり。此紛擾は宗内信徒に波及し、京濱間の信者等は本山側に加袒して反對示威運動を起せしかば、宗務當局は之を以て中山の久保田日龜師及び池上の執事黒澤日明師等の煽動せしものと解し、監督小泉日慈師は久保田・黒澤兩師を任職罷免、僧階褫奪に處し、小湊誕生寺山本日諦師を

特選住職として池上に差遣せんとせしも拒んで受けず。一宗の同情は久保田・黒澤の兩師に集り、當局は却つて不信任を買へり。同盟黨は



【繪解】物部日嚴師

此機に乗じて當局及び爲宗會を壓迫し、爲めに物部小泉兩師は監督を辭し、市川鍊秀師管事として管長事務を取扱ひつゝ、ありしが、同盟黨の計策により、鷄溪師を擧げ、又小林日董師は嘗て合末論者の一人たりしより爲宗會側の推す所となり、此兩師を管長事務取扱となし、別に白山大乘寺に宗政を執る事とせり。茲に現宗務管事市川鍊秀師及び常置員は、未だ現當局は繼續して宗務執行の權利あるものとして、二本榎に宗務を執

宗令二途に出ず

常置員の仲裁

同盟黨の勝利に歸す

りて動かさず、一時は雙榎・白山兩所より宗令を發布してその正閏を争ふの奇觀を呈せしが、終に小林師等は雙榎に宗務の引續を強請し市川師を斥けたり。次で地方録司の多くが爲宗會側に左袒せるが爲に、今後の内局組織に際し、混戦状態の再現せん事を慮りて、録司の管長選舉權を削除し、後任管長の選舉を達令せしが、地方録司は爲宗會と結束し、改良決議案の實行によりて現内局の顛覆を計らんとし、爲宗會は各地に支部を設け、協田堯惇・清水龍山師等は同二十三年八月より雑誌「法鼓」を發行して主義の貫徹に努めしかば、常置員功刀日慈、伊奈日要師等は久保田・黒澤兩師の處分を解き、決議案第一條の實行を延期する事を以て兩黨の仲裁を計りしも成らず。かくて小林師は同盟黨との妥協成立して二十四年十二月管長となり、水野日顯・藤原日迦兩師監督に選ばれ、翌二十五年二月管長諭告を發するに至り、終に全く同盟黨の勝利に歸して、事漸く鎮靜せり。世稱して「一六兩條の諍」

内証の結果

と云ふ。次で四月常置員を廢し、本山住職數名を選出して評議員と改め管長の顧問とせり。かく兩黨徒らに相諍ふて改良案、合末論二者共に行はれず、却て宗門の進運に一頓挫を來たし、爲めに教育の如き他宗に遅るゝの不幸を見たり。

妙満寺派の政争

妙満寺派に在りても同二十二年管長板垣日

一大革新を行ふ

映師は河野日台、本多日生師等の獻策を容れて一大革新を行へり。妙満寺を總本山とし、一宗一本山の制を立て、宗務本聽を妙満寺に、其支聽を東京淺草妙經寺に置き、本山教務財務の三部を設け、法類の閣を打破して寺職の進退權を管長に歸し、宗内の別勸請を停廢し、又中央に監督布教師、地方に布教師を配置して宣傳を計れり。然るに二十五年板本日桓師管長となるや、錦織日航師等此新政を喜ばず、再び舊政に復せしかば、小林日至、本多日生師等大に之に反對し、終に脱宗獨立して、小林師は淺草新福井町に有志信徒を集めて顯本宗學會を起せ

新舊兩黨の衝突

本隆寺派

り。同二十九年に至り革新派再び宗門内閣を組織するに及び、本多師は歸宗し、次で管長となり、爾來着々新政を斷行せり。

本成・本隆二派の分立

本隆寺一派は本成寺派と合同せしが、明

本成寺派

治二十年終に分離獨立して日蓮宗本隆寺派と唱へ、清本日教師之が管長となり、初めて宗會を開き、京都本隆寺を總本山とし、宗務所をここに移し、若狹本境寺、越前平等會寺、本興寺を本山と定む。茲に於て本成寺一派亦日蓮宗本成寺派と稱し、藤平日學師選ばれて管長となり、柿崎慶忍師と共に末寺總代を本成寺に召集し、宗務所を丸山本妙寺に置き、本成寺を總本山とし、越中本法寺、京都本禪寺、播州青蓮寺等を七聖跡と定む。

七聖跡

宗名改稱と大石寺の分立

明治三十一年十一月更に妙満寺

派は顯本法華宗、八品派は本門法華宗、本成寺派は法華宗、本隆寺派は本妙法華宗と改稱し、翌年興門派は本門宗と改む。然るに富士大石寺

大石寺分立

は楠板の本尊を以て事戒壇の正統標幟なりとし、餘の七本山に簡異し、八山同盟の當初より既に分離の志あり。されば大石寺日露師は玉野日誌師と、又鱗尾日守師は大石日應師と數、法義を諍へり。明治二十八年頃より大石日應師は佐藤慈一師と共に獨立運動を起し、同三十三年九月終に分離して日蓮宗富士派と稱へ、大正二年更に日蓮正宗と改む。

日蓮宗の狀況

日蓮宗に在りては明治三十四年六月管長岩村

宗會法を制定す

布教師の養成

宗營の事業

日轟師は監督津田日厚師等と計り、宗會法を制定し、本山住職を甲部議員とし、他を乙部議員となし、定期第一宗會を開けり。爾來甲乙兩院制を採りしが、大正九年合して一院制に改む。明治三十六年管長濱日運師は日蓮宗大學林内に初めて布教師養成所を併置し、同三十九年管長豊永日良師は布教院と改稱して學科の充實を計り、管長旭日苗師は之を京都に移し、のち自ら院長として大に其實績を擧ぐ。又運永

【繪解】佐野前勵師



布教制度の擴張

寺小泉日慈師は日露戰役終るや清國を視察し、同三十九年清國布教會を起し、丹澤日京師次で會長となる。總監佐野前勵師は同四十四年北海道天鹽、北見の國境に移民開墾を企て、法華村と名け、廣瀨啓宣師をして其任に當らしめ、又五十萬圓の護法財團を起し、次て朝鮮京城に慈教學校を創立して、鮮人布教を計り、杉田日布師事を執る。同四十五年東京澁谷感化院を宗門の經營に移し、更に宗務院の改築を企て、業央にして遷化せしかば、總監神保辨靜師後を承けて、大正三年六月之を落成せり。同五年布教法規を改め、二十の教區に布教監一人、常任布教師若干名を置き、

更に巡回布教師、特殊布教師等をして時々各地に傳道を命じ、又朝鮮、滿洲、布哇等には開教司監を配置して宣教に努む。

各教團の統合

明治三十四年七月各派の青年僧侶より成れる

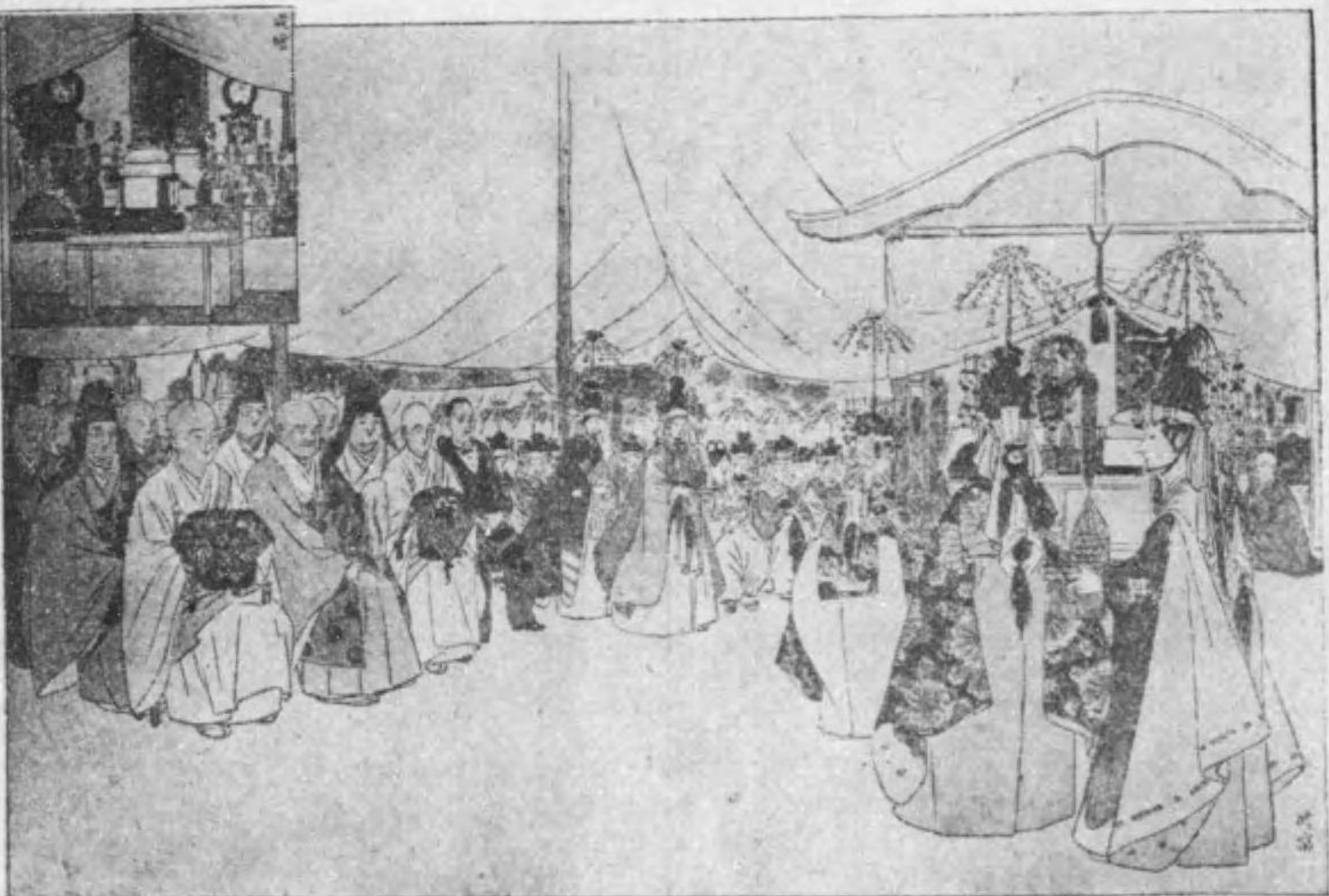
橘香會員加藤文雅、井口善叔、花房日秀、中川觀秀、山田英源、山田一英、秋葉顯正、柴田顛秀師等發起者となり、相州片瀨龍口寺に本化門下夏期講習會を開き、各派の青年一堂に會せしかば、將に來らんとせし開宗六百五十年記念式を各派聯合のもとに行はんとの議出で、又合同の説起り、翌年一月兩國井生村樓に聖祖門下懇親會を開き、各派協同して開宗記念式を舉行し、全國宗徒大會を開く事等を議決し、濱日運久保田日龜、脇田堯惇、本多日生、江上勝義、伊東日規、田中智學氏之が顧問に推され、四月二十一日開宗記念大會序式を深川淨心寺に擧げ、二十八日上野竹臺に日蓮宗管長濱日運師を導師として記念式典を行へり。次で神田錦輝館に宗徒大會を開き、帝都に各派共有の會堂、圖書館

統合の起原

開宗記念大會

宗徒大會

【繪解】上野竹ノ臺に於ける開宗記念式典の圖



大學を設立し、各派合同統一を計り、大會決議實行同盟期成會設立の事等を議決し、脇田、本多兩顧問、幹事長田中智學氏、幹事、中川觀秀、飯田完融、山根顯道、小笠原日毅、小倉豊三郎氏等幹旋大に努む。次で事務所を谷中清水町に設け、大會の決議に基き、六月顧問脇田、本多兩師及び幹事の名を以て各派管長に合同勸告書を送り、八月伊豆伊東に開かれし夏期講習會を機とし、宗内雜誌社長、主筆を會し、決議實行同盟期成會創立の事を議

統合論の中
折

し。發起人を全國より推薦し十一月創立委員會を開き、次で事務所を神田柳原河岸に移して活動を開始せんとせしが、顯本法華宗の外は各派何れも合同勸告書に對して終に答ふる所なく、決議は實行に上らずして止みしが、越て大正三年十月に至り日蓮宗小泉日慈日蓮正宗阿部日正・顯本法華宗本多日生の三管長故ありて會見し、談偶、統合の事に及び、茲に三宗團發起となり、他の四教團之に賛同し、田中智學・山田三良・宮岡直紀氏等の有力なる聲援ありて、遂に十一月七日日本化門下七教團の代表者池上本門寺に會し、各派統合歸一の實現を誓約せり。翌四年二月小原正恒・山田三良・矢野茂・小林一郎・宮岡直紀氏等は統合後援會を組織し、信徒の間に運動して統合の眞意を理解せしむる事に努む。

又京都に在りては天晴會員及聖祖門下同志會員主唱者となりて統合運動を促進せり。同四年三月京阪僧俗の協力によりて京都美術俱

統合運動の
再燃統合交渉委
員會

樂部に統合期成同盟會の發起人惣會を開き、又妙滿寺に幹事會を催し、次で市會議事堂に其發會式を擧げたり。

東京に於ては同月七日日蓮宗々務院に各教團統合交渉委員會を開きて統合規約及盟約書を協定し、日蓮宗の神保辨・靜影・山佳雄・顯本法華宗の野口日主・井村日威、日蓮正宗の坂本要道・下山廣健、本妙法華宗の長谷川日感、吉田研壽、法華宗の近藤日侃、龜山教應、本門宗の足立日城、津田眞學、本門法華宗の谷日昌、信隆日秀師等之が委員たり、本化日將、國友日斌二師選ばれて理事となる。かくて六月二十日より二週間に亘り淺草統一閣に統合講習會を開き、各教團の學匠及寛克彦・井上哲次郎・山田三郎・高島平三郎・小林一郎・境野哲・箕作元八・吉田靜致・深作安文・佐藤鐵太郎等の名士之が講師たり。

次で他の六教團より其學徒教育を日蓮宗大學に依托せん事を申入れしが、日蓮宗々會の否決によりて拒絶するの止むなきに至りしか

統合の破綻

四派の合同
教育

ば順調に進み來りし統合運動も茲に破綻を生じ本多日生阿部日正・足立日城藤平日學師等結束して教育の統合を企て、顯本法華宗・法華宗・本門宗・日蓮正宗四派合同して新に小石川白山前に校舎を建てて統合大學林とし、又神奈川在三澤檀林を改築して統合中學林と稱せり、然れどもこの統合教育事業ものち終に開散分離するに至れり。

第三十六章 寺院・教育・傳道及慈善事業

【繪解】吉
川日鑑師
身延



寺院の整備 各派共に宗政の革新を行ひ、宗内の諸寺亦寺法の改新と俱に寺職其人ありて經營宜を得たり、身延は文政累災の後漸く諸堂宇再建の落成を告げたりしが、新居日薩師就職して大に

【繪解】久
保田日遙師

山規を改正し、支院四十七坊を併合して財政の整理を計れり。然るに晋山の翌明治八年一月、本院諸堂七十五棟、支院十二坊悉く類焼の厄に遇へり。吉川日鑑師其後を補し、酒井顯壽院夫人等の外護を得て再建の業を樹つ。三村日修師の時に至り、久保田日遙師の發議により、身延保存會を組織し、永續資金五十萬圓を募り、又金原明善・伊藤茂右衛門氏等の斡旋によりて、御料林の委託栽培を許可せられ、岩瀬日照師事に當る。明治四十一年更に其拂下を願ひ、小泉日慈師に至りて、完く寺有に歸す。三門は物部日嚴師の時を経て、豊永日良師に至りて落成せり。



中山

中山法華經寺は曾て回祿なかりしが、明治元年三月三門類焼せしかば、久保田日龜師同十九年再建せしに、大正六年十月大風の爲に倒潰せり。又濱日運師は五重大塔の修復をなし、喜多村日修に至つて更に財政の整理を行へり。

池上

池上本門寺は明治三十四年三月客殿庫裡等火災に罹り久保田日龜師再築に努め、藤原日迦師に至りて竣工す。

妙顯寺
本閉寺

京都妙顯寺河合日辰師は龍華文庫を起し、本閉寺旭日苗師は執事羽栗貞秀、西村唯妙師等と共に山規の刷新を行ひ、又明治三十三年九月印度に佛跡を拜し、上海に本閉寺別院を開き、濱井日成師は監督として財政の整理に盡し、貫首となりては拮据伽藍の整備に努め、寺觀爲に一新す。

越後本成寺

越後本成寺は明治二十六年三月類火によりて全焼せしが、藤平日學師本郷丸山本妙寺、芝伊皿子長應寺等の移轉を行ひ、又縁を廣く一派

宗教院

大教院

大檀林

大檀支林

山梨普通校

に募り派内財政の整理をなし、以て本成寺再建の業を成就せり。此他維新前後の政變又は不時の災厄によりて、一時衰微の極に達せし宗内の一般寺院も護法の師を得て法燈漸くその光輝を放つに至れり。

宗門教育の推移

日蓮宗は明治五年芝二本榎に宗教院を設けしに始まり、同八年全國の教區を九分し、宗教院を大教院と改めて第一教區京東に置き、餘の九教區に中教院及小教院を設けたり。同十七年に至り更に全國を十二教區とし、大教院を大檀林と改稱し、池上第一身延第三京都第五に大檀支林を置き、餘の教區は單に檀林と云ひ、小教院を宗學林と改め、次で同十九年五月大檀林に普通學科を加へ、殊に英語を奨励せり。

身延大檀支林を甲府に移し、同二十三年杉田日布金塚日梵師等有志の僧俗と計り、門戸を俗士に開放し、教育によりて傳道の實績を擧げんと欲し、新たに校舎を建て、山梨普通校と稱し、杉田日布野澤義眞、山

崎頭億師等選ばれて校長の職たり。又京都は明治七年六檀林を廢合し、本法寺に中教院を設けしが、同十七年學制改革に際し、本閉



【繪解】小
林日董師

寺内舊求法院檀林跡に校舎を建て、大檀支林となす。林長守本文靜師は信徒川端彌七氏等と檀林會を組織し、村雲日榮尼公を總裁に仰ぎ、守本師會長となり、廣く縁を募りて擴張を企てつゝ、ありき同二十八年六月復た全國を三學區十二教區に分ち、大檀支林を中檀林と改め、十二教區に小檀林を置け



京都檀林會
【繪解】日
蓮宗大學舊
校舎

日蓮宗大學
林

り。越て同三十六年六月の臨時宗會は更に小檀林を全廢し、池上、京都及山梨普通校を併合して一大學林となし、以て教育を統一せん事を議決し、翌年四月東京大崎に校舎の新築就り、日蓮宗大學林と稱し、小

【繪解】本
間海解師



林日董師推されて林長となる。然るに京都檀林會員等は別に東山に校舎を建て、中檀林を繼續せんとす。因て日蓮宗大學林高等科を二部に分ち、その第一一部を京都に置く事とし、風間隨學師推されて教頭となり、本間海解師舉げられて第二部の教頭たり。池上は同三十七年久保田日龜師更に梅檀林を興し、清水梁山師を講主とし、秋山文朗・加藤文雅・大山顯泰・田中義海・小泉要智師等

池上梅檀林

日蓮宗大學

講師として従前の教育を継げり。山梨普通校も、その後武田宣明・望月日謙・加茂・顛透師校長に選ばれ大に學務經營に盡す所ありて何れも旺んなりしが、同三十九年三月京都高等科第一部を大崎大學林に併置するに及び、池上・甲府の兩校も亦廢せられ、學生多く大崎に集る。同四十年四月學則を革ため、日蓮宗大學と改稱し、小泉日慈・本間海解・脇

【繪解】中
田日阜師
身延の教育



田堯・惇・久保田日遙・杉田日布師等相續て學長たり。偶、大正五年三月回祿せしかば更に規模を擴張して再築し、同七年六月その落成を告ぐ。身延は明治七年新居日蔭師・西谷檀林を改めて身延檀林と稱し、學徒を本院に移して教育

祖山大學院

【繪解】島
智良師



せしが、同二十六年一月中田日阜師宗制の變改と俱に之を小檀林とし、別に三村日修師の遺志を紹ぎ祖山大學院を設立して宗學專修の教校とす。又教頭本間海解師の議により他部攻究生を叡山・京都・奈良・高野等に派遣す。冷泉要惇・富木堯廣・清水龍山・脇本觀靜師等その選に當る。教頭關本龍門師を経て小山圓泰師に至り、同三十六年豐永日良師は更に祖山學院と改稱し、清水龍山・富木堯廣師等教頭の職を續ぐ。又島智良師の議を容れて身延文庫の整理を計る。小泉日慈師に及び別に校舍を東谷に新築して學制を革新し、森田日教・關本龍門師等相續て教頭となる。此他中檀林の併合と俱に各地の小檀林一時全廢せられしかば、堀内妙法寺・武見日恕師は小石川に茗谷學園を建て、宗門の青年僧侶に

祖山學院

茗谷學園

光山學院

本化庵檀林

して世間各種學校に入學せる者の寄宿舎に充て、山田一英師等事を執れり。其後地方の必要に應じて小檀林程度の教育、各地に起れり。即ち京都本因寺濱井日成師は光山學院を起し、大正八年別に校舎を新築して學事を奨勵し、大阪には山田日行、佐野貫孝、鎌田潮音、深見靈照、三浦顯孝師等本化庵檀林を創め、之と相前後して本門寺磯野日蓮師は池上旃檀林を再興し、岡田教篤師は堀内旃檀林を設けて各々教育に盡せり。

興門派及本隆寺派の教育

又洛南小栗栖檀林は元と本隆寺日承上人が要法寺末寺本經寺に創始せし故を以て、維新後も尙要法、本隆兩寺合同の教育機關たりしが、明治三十年兩寺相議し、校舎を處理して興門派は重須本門寺及要法寺に夫々學林を設け、本隆寺派は京都花園村に宗學林を建て、教育を施せり。

八品派の教育

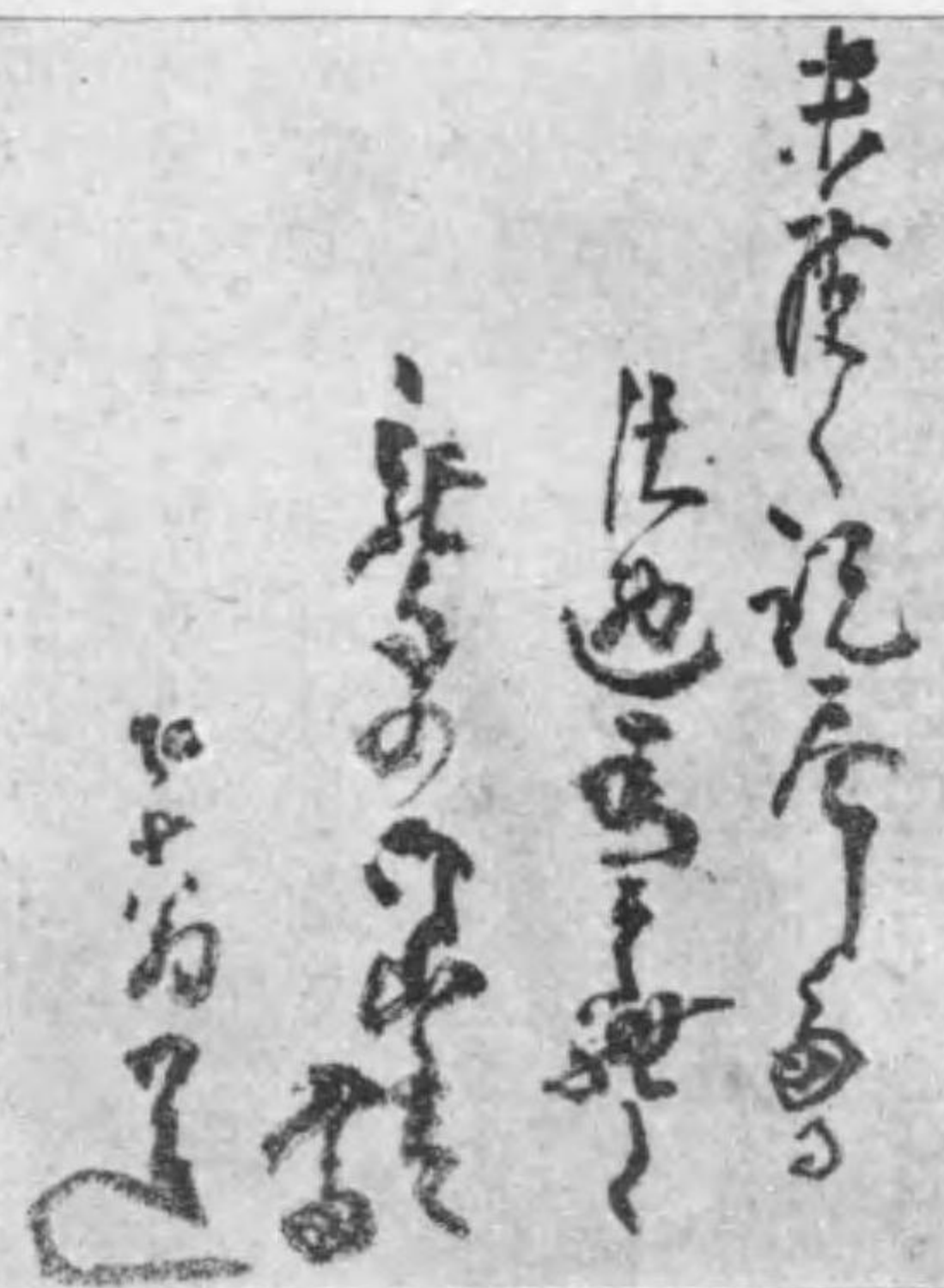
八品派は從來關東には上總細草檀林、關西には尼崎勸學院及京南に

大龜谷檀林を有せり。然れども細草檀林は維新後廢檀となりて中絶せしが、東京本所永隆寺日研、深川妙壽寺日誠師等猿江妙壽寺に再興し、妙蓮寺日成、光長寺日利師等と共に育英の任に當りしかば、一時學徒五十餘人を得たりしも、後復閉鎖の止むなきに至れり。又大龜谷檀林は元治元年本能寺燒失により檀林を廢し、講堂を移して其本堂に充つ。又勸學院も數、學制を改め、宗教院又は教學院等と改稱せられしが、本興寺日勤師之を大阪在蒲田村大願寺に移し、其寺田を學徒に給して奨勵せしも、振はず。尋て信隆日秀師教育の革新を計り、明治二十四年駿州岡宮光長寺に東校を設け、尼崎を西校と改む。然るに一部の師之に反對し、京都岡崎に學校を起して亦西校と稱し、一時其正閏を諍ふに至りしが、同三十年兩者の和議就り、次で岡宮を本門法華宗東校、尼崎を其西校と定め、大正三年更に兩校を合して尼崎に本門法華宗々學林を置く事とせり。

顯本法華宗の教育

顯本法華宗亦明治三十一年大學林を上總宮谷より東京清島町常林寺に移し、後府下雜司谷本教寺に轉ぜしが、次で小石川白山前に校舎を新築して之に移し、統合大學林と稱せり。

祥世



と稱せり。

内地傳道

明治の初年には智境院日進師あり、當代一流の布道家にして、その化境全國に及び、又數、大教院に出て辯華を競ひ、其名各宗の間に傳はる。旭日苗師は辯才を以て聞ゆ、井筒是寬林鳳宣師はその門より出て傳道に盡せり。其他田中智學居士、淺野常瑞、本多日生師等は、教光を宗外に顯揚す。田中智學氏は夙に智境院日進師の室に投ぜしが、所感ありて僧斑

【繪解】河瀬日進師の辭世

教光を宗外に顯揚す
田中智學居士

本多日生

淺野常瑞

博多大銅像

を脱し、居士として傳道に盡せり。明治十三年横濱に蓮華會を創立して祖道復古の運動を起し、同十八年六月佛教青年會員、東京江東井生村樓に耶蘇教撲滅の演說會を開くや、氏其席に四個格言を主張し、大に佛教徒を論破す。越て二十三年龍口法難に關し、重野安釋博士と諍ひ、安國論に就ては小倉秀貫氏の説を駁し、日清の役始まるや、大阪安治川口に國禱會を修す。同二十九年本多日生師は各宗綱要編纂に際し、四個格言を掲載せん事を主張して、遂に各宗協會と諍ひ、大に宗門氣魄を發揮せり。淺野常瑞師は宮崎、鹿島、沖繩三縣の開教を發願し、着々其教績を擧ぐ、又九州博多に於ける聖祖元寇記念の大銅像は、初め福岡縣知事の發起せし所なるが、明治二十三年佐野前勵師、其提唱せし合末論の行はれざるを察し、里見日晴師と共に其業を紹ぎ、東奔西走十有餘年、同三十七年十一月その除幕式を行へり、全長六丈五尺、大に世人の視聽を惹けり。

傳道機關
最勝閣

統一閣

大阪傳道閣

本郷傳道館

國柱會館

【繪解】 旭
日苗師



傳道機關としての道場は明治二十九年田中智學氏の創立せし大阪立正閣に始まり、四十二年三保に最勝閣を建て、本多日生師は各宗協會との諍を動機として統一閣を組織し雑誌統一を發行せしが、四十五年に至り終に淺草清島町に統一閣を築きて法城とす。大正五年に至り、大阪に在りては千日前に日蓮宗傳道閣を創立し、是と相前後して東京には本郷傳道館を駒込に設け、同六年田中智學氏更に東京鶯谷に國柱會館を建て、中央傳道の法陣となせり。

海外傳道

本宗の海外傳道は既に六老僧日持上人に始まり、次で足利氏の明應年間京都本國寺十一世日堯上人入唐

海外宣教會

佐野前勵の
渡韓

縮刷御遺文

弘法を企て、其意を果さず。本期に至り旭日苗師は夙に海外宣教を志し、明治二十四年朝鮮に渡り教會建設を企て、日清の役後終に京城に護國寺釜山に妙覺寺元山に頂妙寺を開き、又海外宣教會を發起し、大正二年法孫旭寬成師をして北米ロスアンゼルスに會堂を創立せしめ、翌年渡米し、萬國佛教大會に臨めり。又佐野前勵師は佐野貫孝師の後援を得て本宗を韓國の國教たらしめん事を企て、管長小林日董師を説き、明治二十八年二月管長代理朝鮮特使として法華經安國論祖師傳香爐等を韓國王に獻じ、以て僧侶入城の禁を解く、堀日温、澁谷文英師之が副使たり、本化日將師は顯正護國會を代表して之に隨ふ。日清日露兩役により國威の發揚と俱に新領土の開教亦從つて起り、滿洲臺灣樺太浦鹽青島布哇北米シヤトル等に及べり。

文書の傳道

文書傳道亦盛となり各教團共に夫々機關雜誌を發行し、加藤文雅師は明治三十五年二月祖書普及期成會を組織し、風

妙宗式目

日蓮宗全書

本化大辭林

村雲婦人會

天晴會

澗治會

法華會

間淵靜稻田海素師等と共に各地の眞蹟に校合を遂げ、前後三箇年にして縮刷日蓮聖人御遺文を出版し、田中智學氏は妙宗式目三千條を著し、本多日生師は同三十九年法華經講義を著し、次て又大藏經要義を出し、鈴木庄太郎氏は同四十三年より前後七箇年に亘りて日蓮宗全書を刊行し、淺井要麟師専ら其事を監す。大正九年田中智學氏本化大辭林を出版す蓋し十五箇年間苦心の結晶なりと云ふ。

信仰團體

各方面よりの宣傳其宜を得て、漸く知識階級の間に熱心なる信者を生じ、信仰團體亦從つて起れり。明治二十九年九月村雲日榮尼公は村雲婦人會を始め、津田日厚、松森靈運、西村唯妙師等事に與りて力あり。同四十二年脇田堯惇、本多日生師等は天晴會を起し、各地に支部を設け、加藤文雄師は東京帝國大學及第一高等學校内に澗治會を組織して日蓮聖人の研究を勧め、大正三年山田三良博士は小林一郎氏と共に法華會を起せり。

福田會育兒院

深敬病院

子守學校

東京慈濟會

慈善事業

宗門に關係ある慈善事業の内、福田會は明治九年三月今川貞山氏等二三の士が發起せしものにして、同十二年四月佛教各宗協同して日本橋南茅場町智泉院内に育兒院を設置し、管長新居日薩師其會長となりしより、我宗は神保日惇、福田日耀、加藤日掌、中里日勝、影山佳雄師等相續で會務に與れり。明治三十九年綱脇龍妙師は身延に深敬病院を創立して癩病患者に施療し、中村寛澄師は京都頂妙寺内に子守學校を起し、後妙泉寺に移せり。明治大帝崩御し給ふや、東京慈濟會は大赦令による免囚の保護事業を起し、電及川、鏑木、豊田等の四部録司及び山田一英、本良英龍師等其實務を執れり。

德川治世二百六十餘年間、幕府の抑壓によりて殆んど去勢せられし本宗は明治維新の改變と俱にその箝制を脱せしと雖も、維新の初期に於ては尙政府宗教對策の變動によりて多少の束縛を免れざりき。

明治十七年一宗の統治權は管長の手に委ねられ、次で二十二年憲法發布によりて信教言論の自由を得、茲に宗粹の發揮と折伏化導の復活とに絶好の機會を與へられ、加ふるに護教扶宗の師ありて祖道の復古・大教の宣揚に努めしかば、宗門の教勢年と俱に隆盛の域に向へり。吾祖開教已來法燈明滅數百年傳へて今に及びしもの、全く幾多先哲が死身弘法殉教の賜ものに外ならず、末代の吾等此難値の教光に浴するの光榮を得たり。世は大正の昭代に在り、法は承けて我に存す、時既に至りて機縁の待てる事や久し、先陣業に斃れて後陣來れるの何ぞ遅きや。本化の大法を宇内に傳へ、世界群類の色心を救濟せん事、是れ寔に祖猷に報じ、又以て前賢の鴻恩に酬ゆるの所以なり。(天尾)

新編 日蓮宗歴史終

大正十年五月十八日印刷
大正十年五月十日發行



定價金貳圓

著者 影山堯雄

東京府大崎町下大崎百廿二番地

發行者 福岡俊介

東京市牛込區櫻町七番地

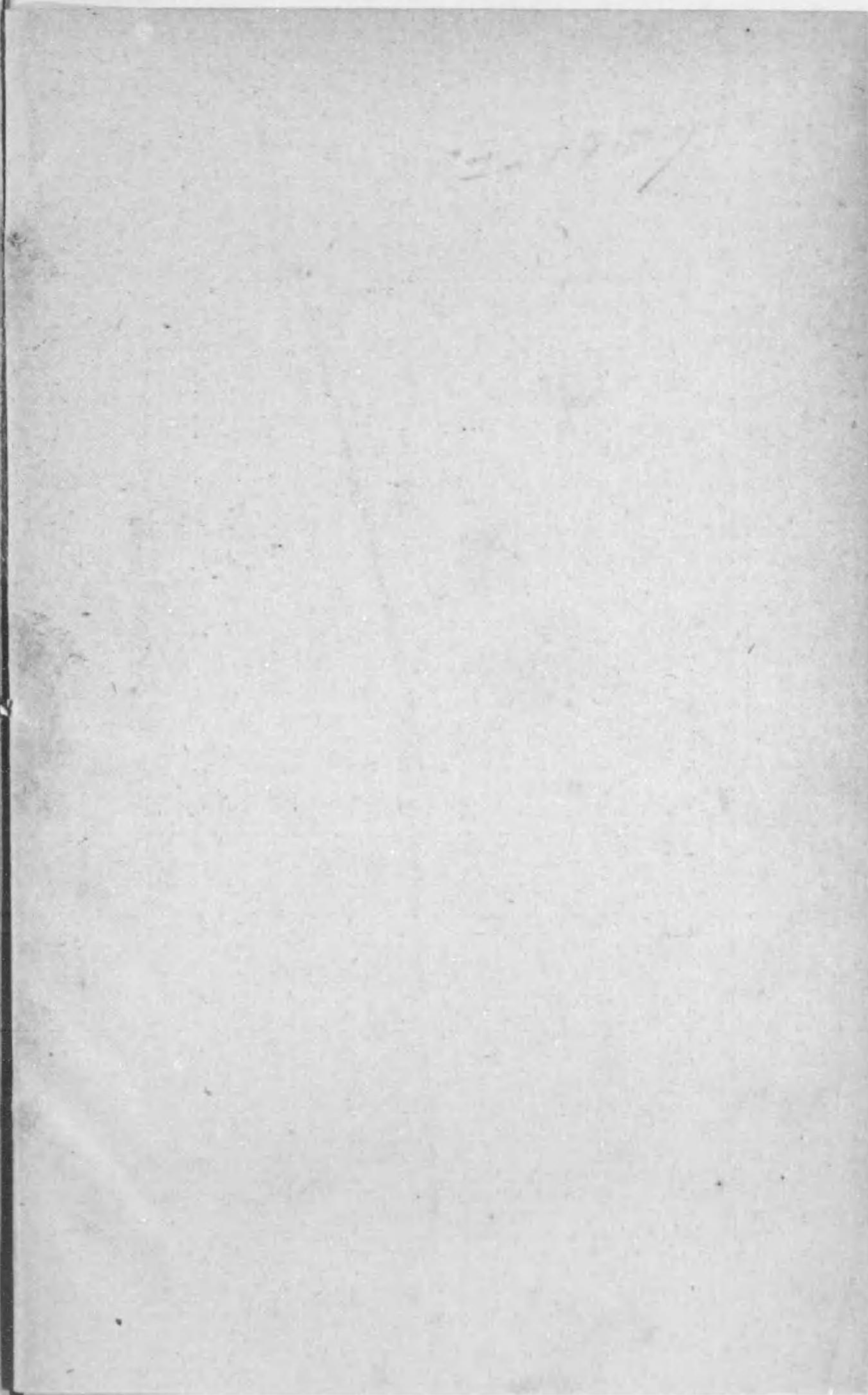
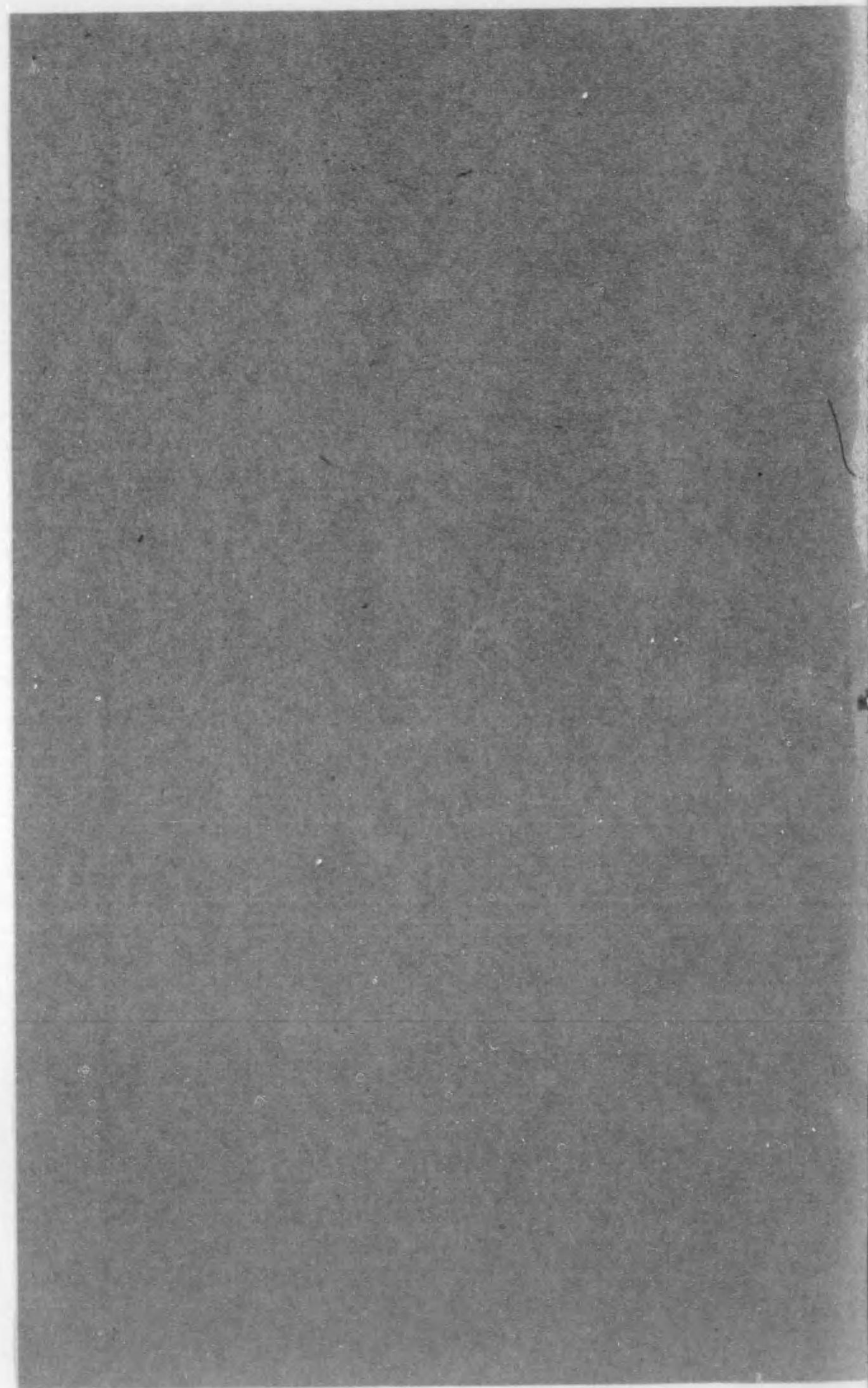
印刷者 本間十三郎

東京市牛込區櫻町七番地

印刷所 日清印刷株式會社

發行所 同融社

東京市外下大崎一三二番地
振替口座東京四六三八二番



324
641

終

